

平成25年度 府立鴨沂高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) ( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>本校の教育方針に則り、教職員が相互に連携し、生徒一人一人の特性を生かす教育指導を積極的にすすめることにより、自ら学び、自ら考え、自ら行動する心豊かな生徒を育てる。</p> <p>1 多様な学習指導方法を取り入れ、生徒全員の学力を向上させる。                  2 文化・芸術に対する関心を高め、人格形成と学力向上に資する。                  3 3年間を見通した進路指導計画に基づいて、進路希望の実現を図る。                  4 高校生としてふさわしい行動がとれる判断力を養う。                  5 自主活動をさらに活発化させ、自治能力の育成を図る。                  6 民主主義と基本的人権について正しく認識させる。</p>	<p>1 授業規律確立に向けて体系化した指導を行い、概ね落ち着いて授業を受けられるようになってきたが、携帯電話等についてはさらなる指導の徹底が必要である。高校での学習の基礎をつくる1年生I類では本年度も少人数講座を編成し、定期考査前には全学年で基礎学力補充を実施するとともに、学習態度や学力面で課題のある生徒に対しては個別指導や集団指導で意識の改善を図り、一定の成果が得られた。進路については、丁寧な指導の結果、進学意識が向上し、受験者数・合格者数ともに増加した。就職も希望者全員が目標を達成した。今後、進学補習や土曜学習の参加者の定着をより一層はかり、基礎学力の充実と進路希望の実現に向けて、入学当初より主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる指導が必要である。</p> <p>2 遅刻については遅刻指導週間等、指導を強化してきたが、アルバイトや生活の乱れが遅刻の原因である場合も多く、保護者とも連携しながら、生徒自身が考え、改善する指導を粘り強く続けていく必要がある。頭髪指導は学年部と生徒指導部を中心とした粘り強い指導によりかなり改善されてきたが、さらに継続した指導が必要である。自転車の安全走行、身だしなみ等については引き続き大きな課題である。</p> <p>3 行事や部活動を中心に、自主自立の力を身につけていけるよう指導・援助を行った。学園祭では生徒自治会幹部会や委員が中心になり、概ね取組を成功させ、リーダーの成長や仲間づくりも一定進んだ。日常的な取組を通して生徒の主体性を高め、コミュニケーション能力を育て、自主性・積極性を向上させるための指導が必要である。</p>	<p>1 授業規律の確立と学習習慣の定着を図り、基礎学力を充実させるとともに、希望進路の実現に向けた指導を充実させる。</p> <p>2 基本的な生活習慣を確立させるとともに、高校生活における基本的なマナーを身につけさせ、かつ自律的な行動がとれる力を養う。</p> <p>3 自主活動(クラス活動・生徒自治会活動・部活動)を充実させ、生徒の自治能力と社会とかかわる力を育てる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇教職員の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆分掌部長は、分掌内の意見を把握して、分掌相互の連携を深め、学校の教育活動全般の活性化に向けて円滑な学校運営を推進する。	1	A	A	昨年度と比較すると、分掌部長で構成する部長会議の充実を図ることができた。しかし、日常的な分掌部長の連携については、十分ではなかった。 これまで放課後に実施していた部長会議と担任会を授業時間内に組み込み、教師が生徒に向き合う時間をより一層確保できるようになった。 期末考査後の平常授業時間数を増加するなど、授業時間数の確保に向けた取組を行ったが、行事日程の見直しや行事を精選するといった改善すべき点も残されている。 昨年度以上に、教職員と事務部の連携が図れた。 丁寧な窓口業務・電話対応を行った。
	◇地域から信頼される学校づくりを行う。	◆会議を時間中に設定するなど、教員が生徒に向き合う時間の確保を目指す。	2	A	A	
		◆授業時間数の確保に向けた取組を推進する。	3	A		
		◆成果と課題を分析し、外部の意見を積極的に取り入れながら、適切な次年度学校経営計画を策定する。	4	B		
	◇京都フロンティア校の取組を充実、発展させる。	◆特色ある取組を実施し、「魅力ある学校づくり」を進めることにより、学校の活性化及び特色化を推進する。	5	A	A	
	◇教職員と事務部との連携を強化し、府民サービスを推進する。	◆教職員と事務部の連携を密にし、生徒情報の共有化に努める。	6	A	A	
		◆生徒・保護者・府民に対して、丁寧な窓口業務・電話対応に努める。	7	A		

学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆教員研修を充実させ、教科指導力の向上と授業の工夫・改善に努める。	8	A	A	<p>全ての教員の全授業に対する授業アンケートを実施し、教科ごとに成果と課題を分析した。分析結果を冊子にまとめ、教員研修を実施した。部長会議や職員会議を通して、課題のある生徒の共通理解を図り、指導を実施したため、昨年度と比較して学力不振の生徒数は減少した。各学期において、家庭学習強化週間の取組を実施した。新聞を活用して、身近な問題について考える指導を実施した。プレゼンテーションをさせるなど、表現力の向上につながる指導を工夫した。団体芸術鑑賞を企画・実施した。図書館をギャラリーとして、日常的に美術の授業や美術部で作成した作品を展示し、文化・芸術に触れる機会を設けた。</p>
	◇基礎学力を充実させ、原留・中退、学力不振者を減少させる。	◆授業規律の確保に努める。	9	B	B	
		◆課題のある生徒についての情報を全教員で共有し、進級・卒業に向けた的確な指導を行う。	10	A		
		◆宿題等、家庭で学習すべき内容を具体的に提示することにより、家庭学習習慣の定着を図る。	11	B		
	◇言語活動に関する能力の向上を図る。	◆新聞を活用したり、生徒のレポートを発表させるなどして、読解力・表現力の向上を目指す。	12	B	B	
◇文化・芸術活動を推進する。	◆文化・芸術教育を充実させ、豊かな情操を養う。	13	A	A		
生徒指導 特別活動	◇基本的な生活習慣と望ましい生活規律の実践を通し、規範意識の確立と自律的生活を送る資質の高揚を図る。	◆服装、頭髪、装身具等の身だしなみに関する指導を日常的にすすめる。	14	C	B	
		◆登校時の立番指導を実施し、あいさつ交換によるコミュニケーション活動の活性化を図るとともに、自転車通学に関し自他共に安全な走行ルール・マナーの徹底に努める。	15	B		
		◆校内における携帯端末等の使用ルールについて理解を深めさせ、その取扱いの徹底に努める。	16	B		
	◇生徒の自主性・自発性を伸ばさせる。	◆学年の枠を越えた交流を通してリーダーとしての資質の向上を図る。	17	B	B	
		◆部加入率を高め、日常的に活発な活動ができるよう支援する。	18	C		
◆生徒自治会に定期的に関わり、文化祭等自主活動の運営に責任を持って取り組めるよう指導する。		19	B			
進路指導	◇生徒の進路希望の実現に向けて、進路情報を幅広く収集整理し、個に応じた進路指導を展開する。	◆将来の進路希望に対する展望を早期から持たせ、的確な進路情報を提供すると同時に、計画的・系統的な進路指導に重点を置く。	20	B	B	
		◆学年と進路指導部が連携を図りながら、各種模擬試験や進学補習・土曜学習等へ積極的に参加する姿勢を育成する。	21	B		
		◆3年間を見通した進路指導計画を策定し、各学年段階において設定された目標に応じた取組を丁寧に行うとともに、的確な資料、情報を提供する。	22	B		

	◇全校を挙げた進路指導を推進するために、学校内外での連携を強化し、進路指導に取り組む。	◆校内の各分掌・教科との具体的な情報交流を行う。 ◆大学訪問や出張授業など高大連携を生かした取組を計画的に実施したり、個々の就職希望に応じて、就職支援諸機関と連携を密にする。	23 24	B B	B	し、的確な資料、情報の提供を行った。 高大連携を計画的に実施し、授業連携に取り組んだ。 大学生や職業人などを積極的に活用したガイダンスを実施した。	
人権教育	◇人権を尊重する態度を身につけさせる。	◆学年との連携を図り、効果的な人権学習を実施する。 ◆生徒間によるいじめやいやがらせは絶対に許さない気運を醸成すると同時に、生徒個々の課題に即したきめ細かな指導を行う。	25 26	B B	B	各学年との連携を図るように努めたが、3年間を見通した系統的な指導計画の作成が課題である。 いやがらせに類似する行為が見られたが、担任間の速やかな連携によりきめ細やかな指導を行った。 生徒に対して、適切な保健指導・保健管理を行った。 保護者やスクールカウンセラー、学校医や医療機関との連携に努めた。 ほけんだよりの発行や掲示板を活用し、望ましい生活習慣について一定の啓発を行った。 生活執行委員が校舎移転に関わる業務について役割を果たした。	
	◇生徒が心身共に健康な学校生活を送ることが出来るよう、環境を整える。	◆生徒の心身の問題への対応を、全校体制で取り組むための環境を整える。 ◆生徒の基本的な生活習慣や食生活を把握し、望ましい生活習慣の確立のための啓発を行う。 ◆生徒自治会生活執行委員会の活性化の援助を行う。	27 28 29	B B B	B		
	◇生徒が快適に学習活動を行うことができるよう、校内美化に努める	◆日常の清掃活動を通じて環境や美化に対する意識を高める。	30	B	B		ごみの分別や集約方法も定着し、減量に結びついた。
	◇修学援護制度を周知し、活用できるよう支援する。	◆生徒の修学保障のため、各種の修学援助制度を一層周知徹底し、タイムリーな制度活用に努める。	33	B	B		予算・業者との関係から、全ての施設設備に対して速やかな対応ができなかった点もあるが、可能な範囲で順次対応に努めた。 生徒の修学保障のための各種の修学援助制度をタイムリーに活用した。
家庭・地域社会との連携	◇広報活動を充実し、学校の情報を迅速に提供する。	◆ホームページの更新に組織的に取り組み、最新の情報を発信する。	34	C	B	ホームページの更新が2学期以降滞ってしまった。 中学校へは積極的に働きかけ、学校説明会を通じて広報活動を充実できた。 多くの生徒に対して外部人材を活用した教育活動を実施できたが、全ての生徒ではなかった。	
	◇積極的な生徒募集に努め、本校への志願者を増加させる。	◆学校説明会への参加を地域の中学校に積極的に働きかけるとともに、内容を充実したものにする。	35	A			
	◇外部の人材を活用して教育活動を活性化させる。	◆全ての生徒に外部人材を活用した教育活動を実施する。	36	B			
学習環境	◇施設・設備の整備充実させる。	◆施設設備の簡易な修繕は速やかに対処する。 ◆各種工事は、生徒の安全確保を最優先に、教育計画に支障のないように配慮する。	31 32	B B	B		

次年度に向けた改善の方向性	①生徒の学力向上のために授業時間数を確保するとともに、進路目標の達成に向けた取組を強化する。 ②定期的なホームページの更新を行うことで、開かれた学校づくりを目指し、中学生に対する広報活動を充実させる。 ③生徒指導に関する教員間の連携と意思統一・指導の徹底を図り、生徒に情報モラルを理解させるように努める。
---------------	--